

メキシコホームステイ「人が近くなる→ことばが近くなる」

—世界に通じる力を育てる— 第 80 号

こんにちは。NPO 法人多言語広場(ピアザ)CELULAS の尾本です。(以後セルラスと表記します)
12 月からメルマガを担当することになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

2018 年も残り 10 日あまり。皆様にとってこの 1 年はどのような年だったでしょうか？

セルラスでは今年も子供から大人まで、多言語活動を通して 1 人 1 人が様々な気づきを経て成長し、
そしてそれらの手記をメルマガとして配信させていただきました。

そして今年最後のメルマガは 10 月 26 日～11 月 3 日までメキシコに単身ホームステイに出かけた、
ある 1 人のお母さんの「気づき」です。

チャレンジしたことから得た気づきは、きっと一生の宝物として彼女の中に残ることでしょう。
そしてそれを共有する私達もきっと何かを見つけられると思います。

来年からさらに 1 歩踏み出す勇気を得るためにも、皆さまどうぞじっくりとお読みください。

「メキシコホームステイで感じた『ことば』の不思議」

神奈川県藤沢市在住 赤星さん(家族構成：夫・息子 7 歳・娘 6 歳・息子 4 歳・息子 1 歳)

私はもともと外国語に対してコンプレックスがあり、外国の人がいたら目を背けるような人間でした。
でも、セルラスに参加するようになって、外国語に対する以前のような感覚が小さくなっていき、
最近では出かけた先で外国語が聞こえると、「なんと言っているのかな～」と耳を傾けるようになってきま
した。

ことばの量が急激に増えたというわけではないですが、
そんな風になってきたのは、心が開いてきているのかもしれないと感じていました。

【わずかな「ことば」でメキシコへ】

今回のメキシコホームステイの話を聞いた時、自然と「行ってみたい！」と思いました。

スペイン語は話せない、英語も…？の私が、自己紹介などのわずかなスペイン語のみを持ってメキシコへ出
発しました。

そういう状態でしたので、最初はホストのスマホ通訳を使ってコミュニケーションをとっていました。

現地の学校を訪問した時に、一緒に行ったセルラスメンバーと会い、
みんながありとあらゆる方法を使って一生懸命コミュニケーションをとっている姿を目にしました。
一方、機械に頼ってそれを行っている自分に対して引け目を感じ、これではダメだと思いました。

【イメージの共有がことばになる!】

そこで機械を通してではなく、自分のことばで、作っていったアルバムを説明したり、おみやげを渡したり、一緒に食事を作ってふるまったり・・・と、同じものを食べ、同じ時間を過ごし、会話としては不十分でも、コミュニケーションを取ることをしてみました。

するといつの間にか家族の空間に緊張することなく一員として座っている自分がいて、ホストの言っていることばが分かっていて、「Si」「No」だけだけど、

『返事が出来ている! コミュニケーションが取れている!』という感覚があることに気づきました。

【コミュニケーションの秘訣!?!】

ホームステイ最後の夜、パパが私に向かって話しました。

私分からないような顔を見ると、パパはスマホを出してきましたが、結局使わずにコミュニケーションしようとしてくれました。

その時私が気づいたのは、自分の聞き取れた音やイメージをとにかく伝え返すことが大切だということです。分からない顔をするだけでは相手がコミュニケーションをしなくなってしまうことが多く、とにかく聞き取れたものを赤ちゃんのように繰り返すだけでもいい!と思いやってみました。

そうすると少しずつ絡み合った糸がほどけるようにことばが伝わってきました。

「僕は日本語を、あなたはスペイン語を勉強しましょう」というような内容だったと思います。

私も最後まであきらめずに話し続けることができました。

そして帰国日の昼食の時、ママとパパが「鶏をさばきますか?」と質問してきたのが何度かやり取りする中で分かりました。Muy bien!

途中スマホを出そうとしたパパに「いらない、わかったよ」とついに断ることができました。

【共有する時間、共有することば】

一緒にいる時間が長くなればなるほど、共有する経験が積み重なり、ことばのイメージが出来るので、スマホはほとんど使わなかったという日が送れるようになっていました。

大してことばがなくても何とかなりました。

でもやっぱりそこにもう少しことばがあれば、もっと深い交流ができる!とも思いました。

今はスペイン語のCDが私にとってメキシコの家族との生活を思い出すものとなり、これからさらに自分に染み込んでいきそうな気がしています。